

ナイルの流れに

カイロ日本人学校 Noboru Ozawa



H.28.11.12

No.51

全校植樹

エジプトと言えば、ピラミッド、ナイル川、そして砂漠を思い浮かべる人が多いと思います。カイロ日本人学校では、11月8日に**全校植樹**を行いました。これは、**エジプトが推進している緑化事業に少しでも貢献**しようというものです。

エジプトの国土面積は、日本の約**2.6倍の約100万km²**で、その約**95%**が砂漠です。人口は、急速に増えていて**現在約9300万人（世界第14位）**です。人々は水の あるところ、つまり**ナイル川流域かオアシス**に住んでいます。エジプト政府は、南部のナセル湖（アスワンハイダムによってできた湖）周辺で緑化を進め、人々の移住を促進しています。また、住宅地としてだけでなく、今後予想される**食糧不足**にも対応するため、**砂漠に灌漑用水を引き畑にしたり果樹園**にしたりしています。



農業省の植樹担当者（右から2人目の女性）

今回、学校が植樹をした場所はカイロから約60km北に行ったレグアという、農業省の農園です。この農園に**シュノーバルという松の木**の苗を植えました。松は、乾燥に強く栄養が乏しい土地でも育つからです。日本の植樹祭と異なり、植える木は自分で購入します。植えた後の管理費を含めて**1本20ドル**です。日本円に換算するとちょっと高いのですが、左の写真のように水をやる黒いパイプやナンバープレートなどを付けてくれます。私も1本購入して苗を植えました。番号は「444」で、エジプト人はこのように同じ数字が揃っているとラッキーナンバーだと言います。日本人の私にとっては、「4」が揃っているのが複雑な気持ちでした。



この農園には、**オレンジ、オリーブ、レモン**などの**果樹園**もあります。植樹の後、オレンジ狩りもしました。13個で10ポンドです。さっぱりとした甘さで、とてもおいしかったです。



植樹に行く前に、全校で事前学習を行いました。エジプトの環境や世界で進行している砂漠化の現状、そして植樹の意義について学びました。私たちが植えた苗は、緑化のほんの一部に過ぎません。しかし、自分が植えた木がこれから何十年とエジプトの地で生長していると思うと、なんだか誇らしい気分になりました。